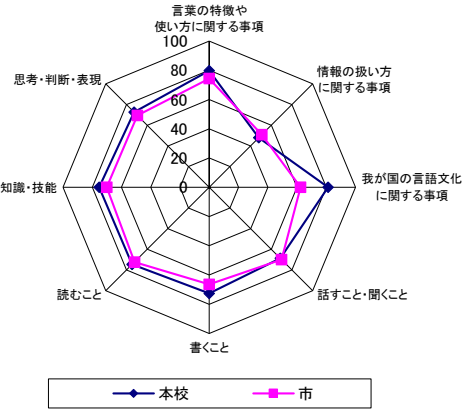


宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.7	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	47.9	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	81.3	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	68.8	69.9	69.7
	書くこと	72.6	66.4	64.6
	読むこと	74.7	72.3	71.0
観点別	知識・技能	75.3	70.1	70.0
	思考・判断・表現	72.6	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

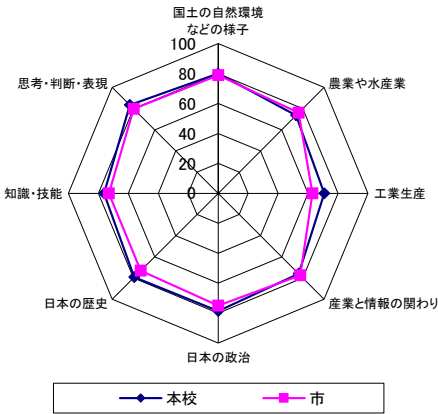
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	平均正答率は、市より高い。 ○漢字を書く問題では、市の正答率より高い。特に、「第5学年に配当されている漢字を正しく書いているか」を問う問題では、市の正答率より14.7ポイント高い。 ●「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っているか」を問う問題では、市の正答率より5.4ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を学習する際に、単語として学ぶだけでなく、文章の中でどのように使われるのかについて指導する。 ・新出漢字の学習で、言葉の意味を理解させる。 ・読書や音読の充実を図り、文章の中で使われる漢字に慣れさせる。
情報の扱い方 に関する事項	平均正答率は、市より低い。 ●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いているか」を問う問題では、市の正答率より5.7ポイント低く、課題が見られる。	・ICT機器や一人一台端末を活用し、資料を読み取ったり、複数の資料を視覚的に関連付けたりする学習を繰り返すことにより、情報を扱う力を向上させる。
我が国の言語文化 に関する事項	平均正答率は、市より高い。 ○「漢字の由来について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より18.9ポイント高い。	・引き続き、新出漢字の学習指導や、基礎基本の定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市よりやや低い。 ○「話し手の目的に応じて、話の内容を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より1.9ポイント高い。 ○「計画的に話し合い、考えを広げるための工夫を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より1.4ポイント高い。 ●「互いの立場や意図を明確にしながらか」を問う問題では、市の正答率より6.6ポイント低い。	・国語や学級活動などの話し合い活動では、話し合う目的を明確にして、話し合いを行う習慣をつけさせたい。 ・一人一人が話し合いに目的意識をもって参加できるような、雰囲気作りや意識付けを行う。
書くこと	平均正答率は、市より高い。 ○文章を書く問題では、市の正答率より高い。特に、「指定された長さで文章を書いているか」を問う問題では、市の正答率より17.6ポイント、「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いているか」を問う問題では、市の正答率より16.2ポイント高い。 ○「グラフから読み取った事実を書いているか」を問う問題では、市の正答率より7.0ポイント高い。 ●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いているか」を問う問題では、市の正答率より5.7ポイント低く、課題が見られる。	・他教科との関連を図りながら、資料が何を表しているのかポイントを押さえながら読み取らせる指導をしていきたい。 ・国語以外の学習でも、時数を決めて自分の意見をまとめる活動を数多く取り入れていきたい。
読むこと	平均正答率は、市より高い。 ○「文章の論の進め方を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より12.5ポイント高い。 ○「文章全体の構成を捉えているか」を問う問題では、市の正答率より9.3ポイント高い。 ●物語を読み取る内容では、市の正答率より低い。特に、「登場人物の心情について、描写を基に捉えているか」を問う問題では、市の正答率より2.6ポイント低い。	・物語文の読み取りにおいて課題が見られる。作品全体の流れや場面と場面の関わりをおさえながら、登場人物や場面描写を捉えられるような指導を行いたい。 ・文章を読む際には、指示語に注目することや前後の文章との接続に注意することなどを授業の中でしっかりおさえたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	80.0	78.9	75.4
	農業や水産業	73.6	76.1	71.2
	工業生産	70.8	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	76.0	77.6	59.7
	日本の政治	78.6	75.0	79.3
	日本の歴史	79.2	73.1	72.8
観点別	知識・技能	76.2	73.0	71.4
	思考・判断・表現	83.3	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

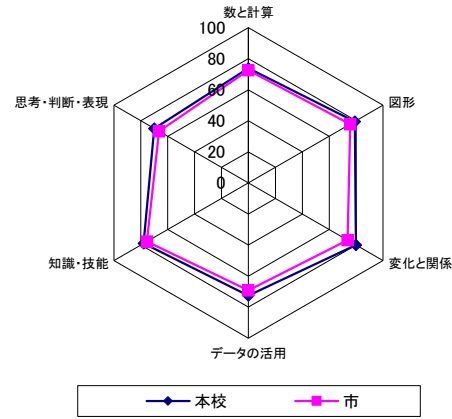
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	平均正答率は、市よりやや高い。 ○「日本の周辺の海洋名について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より4.4ポイント高い。 ○「中国の国旗と位置について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より5.6ポイント高い。 ●「日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取っているか」を問う問題では、市の正答率より10.1ポイント低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎基本の定着を図るために、練習問題に取り組ませる。 ・日本の周辺国について、ICTを活用し、児童が自ら進んで学ぶことができるよう工夫していきたい。 ・他教科と関連させたり、地図上で場所を確認したりしながら指導することで、基礎基本の定着を図る。
農業や水産業	平均正答率は、市より低い。 ○複数の資料に着目して、魚の流通にかかる費用について捉え、判断しているか」を問う問題では、市の正答率より6.4ポイント高い。 ○「日本の農業人口をめぐる課題について資料を読み取っているか」を問う問題では、市の正答率より8.4ポイント高い。 ●「都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめているか」を問う問題では、市の正答率より22.1ポイント低く、課題が見られる。	・都道府県について、基礎基本の定着を図るために、練習問題に取り組ませる。 ・農業従事者が多い地域であるので、身近なことを話題にし、地域の方を招いて話を聞いたりする活動を行い、興味関心を高めたい。 ・ICTを活用して、多くの資料を読み取る活動や白地図にまとめる活動を意図的に取り入れることで、一人一人が意欲的に学習に取り組めるような指導の工夫をしていきたい。
工業生産	平均正答率は、市より高い。 ○日本の工業生産に関する問いでは、全ての問いが市の正答率より高い。	・授業において、グラフの読み取りや輸入相手国についてまとめる活動を行った成果だと考えられる。引き続き、基礎基本の定着のために練習問題に取り組ませる。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市より低い。 ○「インターネットを利用するときの注意点について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より0.7ポイント高い。 ●「資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現しているか」を問う問題では、市の正答率より3.7ポイント低く課題が見られる。	・実生活の中で生じた疑問や課題に対して児童に考えさせる活動を取り入れ、実感を伴った理解につながるよう指導する。 ・外部講師を積極的に活用することで、児童が広い視野を持って情報の活用について考えられるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市より高い。 ○「日本国憲法の三原則について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より20.2ポイント高い。 ○「国会の仕組みについて理解しているか」を問う問題は、市の正答率より14.2ポイント高い。 ●「裁判の仕組みについて、資料を読み取っているか」を問う問題では、市の正答率より8.8ポイント低く、課題が見られる。	・新聞やニュースなど時事問題を話題にし、児童に考えさせる活動を取り入れ、実感を伴った理解につながるよう指導したい。 ・疑似体験を取り入れることで、裁判の仕組みや各裁判所の特徴に興味をもたせることにより、意欲的に学習に取り組める工夫をしていきたい。
日本の歴史	平均正答率は、市より高い。 ○鎌倉時代や室町時代に関する問いでは、全ての問いが、市の正答率より高い。 ○「江戸時代の主な大名の配置について、資料を読み取っているか」を問う問題では、市の正答率より11.9ポイント高い。 ●「武家諸法度について理解しているか」を問う問題では、市の正答率より4.4ポイント低く、課題が見られる。	・時代ごとに主要な歴史的人物や出来事をおさえ、練習問題に取り組ませることで、基礎基本の定着を図る。 ・ICTを活用したり、司書と連携を図りながら図書室や学区内の南図書館を活用することで、多くの情報から課題にあった資料を選択し、深く考えられるような指導を工夫していきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.9	72.6	73.1
	図形	79.2	75.7	74.7
	変化と関係	79.9	73.6	66.1
	データの活用	72.6	69.2	70.7
観点別	知識・技能	78.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	70.1	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

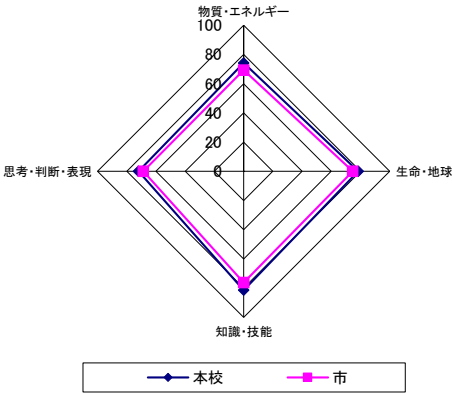
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市よりやや高い。 ○小数の計算や文字の式の問いでは、全ての問いが、市の正答率より高い。 ●「1より小さい分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができるか」を問う問題では、市の正答率より6.2ポイント低く、課題が見られる。 ●「図を使って分数の乗法の文章課題にあった式を選ぶことができるか」を問う問題では、市の正答率より4.8ポイント低く、課題が見られる。	・朝の学習や授業、宿題等で、基礎基本の定着を図るためにプリント学習やAIDリルを活用した学習に取り組ませたい。 ・文章を読み取って乗法で求めることができることに気付くことや、積の大きさの性質を理解することに課題が見られるので、基礎的事項を再確認するとともに、文章問題を解くことや自分で導き出した答えが妥当であるかを確認する習慣を身に付けさせたい。
図形	平均正答率は、市より高い。 ○「直方体を組み合わせた形の体積を求めることができるか」を問う問題では、市の正答率より10.3ポイント高い。 ○「合同な三角形を作図することができるか」を問う問題では、市の正答率より9.3ポイント高い。 ●「線対称な図形の対応する点を見つけることができるか」を問う問題では市の正答率より11.4ポイント低く、課題が見られる。	・図形の特徴を身近に感じながら学べるよう、具体物を操作する活動の充実を図りたい。 ・線対称や点対称の図形について、図形の特徴を再確認し、対応する点の見つけ方の理解を深めさせたい。
変化と関係	平均正答率は、市より高い。 ○単位量当たりの大きさ・速さについての問いでは、全ての問いが、市の正答率より高い。 ○「半分が何%であるかを理解しているか」を問う問題では、市の正答率より7.3ポイント高い。	・面積と人数の割合から混み具合を考えたり、速さの単位の関係を用いて移動距離や時間を求めたりするなど、様々な単元で学んだことを活用する問題を解くことで、授業で学んだ知識を「活用できる知識」へと発展させていきたい。
データの活用	平均正答率は、市より高い。 ○「代表値を用いて、えみさんの記録がクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明しているか」を問う問題では、市の正答率より18.1ポイント高い。 ●「度数分布表を完成させることができるか」を問う問題では、市の正答率より4.3ポイント低く課題が見られる。	・授業の中で、データを読み取ったり自分の考えを表現するためにデータを活用したりする活動をした成果だと考えられる。 ・グラフで割合を読み取ると同時に、その量についても考えられるようにしていきたい。 ・各学年で取り扱うデータの整理の仕方について、算数だけではなく社会科や他教科とも関連させ、実生活と結び付けた学習を行い、データ活用能力を高めていきたい。

宇都宮市立雀宮東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	74.2	69.3	65.7
	生命・地球	78.4	74.7	77.8
観点別	知識・技能	81.4	76.2	76.4
	思考・判断・表現	71.9	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市より高い。 ○「ふりこの実験を計画することができるか」を問う問題では、市の正答率より13.4ポイント高い。 ○「電磁石のコイルの巻き数の多い電磁石が、強い磁界を生じingenことを理解しているか」を問う問題では、市の正答率より5.7ポイント高い。 ○物の燃え方に関する問いでは、全ての問いが、市の正答率より5ポイント以上高い。 ●「電磁石と棒磁石に共通する特徴を指摘できるか」を問う問題では、市の正答率より1.0ポイント低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・各種実験の計画・方法・注意・結果の考察については理解度が高いので、引き続き効果的な学習を進めることができるように指導していきたい。 ・授業で映像資料を活用し、理解が深まるように工夫した授業を展開したい。
生命・地球	平均正答率は、市より高い。 ○動物のからだのつくりとはたらきに関する問いでは、全ての問いが、市の正答率より8ポイント以上高い。 ○「生物が取り入れたり出したりする気体の流れを理解しているか」を問う問題では、市の正答率より11.2ポイント高い。 ●「いすに座った人を地球に、電灯を太陽に見立てていることを指摘できるか」を問う問題では、市の正答率より8.4ポイント低い。 ●「植物の葉のでんぷんをつくるはたらきと日光の関係を調べるために対照実験を行う理由を推測できるか」を問う問題では、市の正答率より6.2ポイント低い。	・基礎基本が定着している「動物のからだのつくりとはたらき」や「生物とかんきょう」などは、さらに復習プリントを活用して、力を伸ばしていけるように支援する。 ・映像資料を効果的に活用し、「月と太陽」についての理解を深められるようにする。 ・「植物のつくりとはたらき」の学習は、児童の実生活と関連付けたり、実際に児童がグループ活動で実験をし、観察したりして、理解を深められるようにする。

宇都宮市立雀宮東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・論理的思考力の向上を目指し、確かな学びにつながる授業の工夫 ～ICT機器の効果的な活用を目指して～	・アンブラグドプログラミング学習を積極的に取り入れ、論理的な思考力を育成する。 ・プログラミング学習を通して、目的に応じて見通しを立て、試行錯誤しながら課題解決に取り組めるような授業づくりをする。 ・ICT機器を授業に取り入れ、各教科で効果的に活用する。 ・各教科でAIドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。	・3年生から6年生までの「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」の問いには、市の肯定割合を4学年中、3学年が上回った。わずかに市の肯定割合を下回った学年も、昨年度の本校の割合と比較すると、11ポイント上回った。 ・3年生から6年生までの「パソコンのキーボードを使って、文章を入力することができる」の問いには、市の肯定割合を4学年中、3学年が上回った。わずかに市の肯定割合を下回った学年も、昨年度の本校の割合と比較すると、6ポイント上回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

「とちぎっ子学習状況調査」「全国学力・学習状況調査」「学習内容定着度調査」から、国語では話し合い活動について、話し合いの内容を聞き取ったり、互いの立場や意図を明確にしながら話し合っているかを判断したりする問いに課題が見られた。そこで、国語や学級活動などの話し合い活動では、話し合う目的を明確にして、よく考えながら話し合い活動を行えるように支援していきたい。また、一人一人が話し合い活動に目的意識をもって参加できるような雰囲気作りや意識付けを行っていききたい。算数では、文章問題や図形の問題に課題が見られた。算数ドリルを繰り返し活用したり、AIドリルを活用したりして、基礎基本の定着を図るとともに、文章問題では、問題の内容を図に表して考えられるような授業を展開していきたい。また、図形は、特徴を身近に感じながら学べるように具体物を操作する活動の充実を図るとともに、ICT機器を使用して図形を視覚的に捉えられるような授業を展開していきたい。